

## 平成 29 年度大学発まちづくり研究助成事業：

### 課題テーマ 2 「姫路市内を研究フィールドとしたまちづくりに関する政策や課題についての研究」

#### 採択研究テーマ

#### 「地域力を育てる ー地域の求心力を高める地域の食卓ー」 成果発表会

#### 研究代表者

姫路大学教育学部こども未来学科 講師 大西 雅子

#### 共同研究者

姫路大学教育学部こども未来学科 3 回生

荒木 蒼馬、今田 健太、門脇 裕矢、下川 知歩

#### 研究目的：

地域力を考える上で世代間交流は欠かせないが、世代間交流が定着するためには、適切な機会、空間及び適切なマンパワーを設けていくことが欠かせない。地域力が育まれるためには、適切な環境を整えることは大変重要な課題といえる。特に世代間交流を行う場合のサポート体制を考えると、高齢者、子ども、保護者世代、それぞれについての連携が取れる体制であることが求められる。近年、全国において、「子ども食堂」、「地域の方とともに食事を会する食事会」など「食事」という機会にこうした地域力を育む機会のニーズが高まっている。

そこで、本研究では、「地域力」を育む機会として「地域の食卓」のニーズがあるのかどうか、また実際に「地域の方とともに食事を会する食事会」を実施し、その必要性や効果について調査を行う。そして、その結果を以って、充実したサービスに繋がるよう姫路市に提案を行うことを目的とする。

尚、「地域の方とともに食事を会する食事会」については以下「地域の食事会」と表記する。

#### 研究方法：

意識調査、及び「地域の食事会」に関する調査を行った（無記名質問紙による）。

#### 研究実施状況：

##### 1. 意識調査

##### ○対象者

対象者は姫路市内市立小学校 1 校の保護者及び生徒(全学年)、及び姫路市内私立こども園 1 校の保護者、地域在住の市民のみなさんを対象として、「地域の食事会」について、関心や協力(マンパワー)などについての意識調査を行った。調査実施にあたり、主旨説明及び協力依頼を行った。

##### ○質問内容 (付録資料に記載 以下抜粋)

##### ◇保護者への質問

地域力を活用した「食事会」が行われる場合についての興味・関心があるかどうか。

地域力を活用した「食事会」に子どもを参加させるかどうか。

お子さんを参加させるか参加させないかを考える時に気にすることはどんなことか。

食事会の参加費用、日程、企画内容、メニュー、など。

##### ◇生徒への質問

晩ごはんの時間は？何時頃に寝ている？子どもだけでお留守番をする？ご近所のかたとお話をすることはありますか？ご近所のかたとみんなでいっしょにごはんをたべる食事会があれば参加してみたいですか？など。

## ◇地域の方々のボランティア(マンパワー)に関する質問

地域力を活用した「食事会」が行われる場合についての興味・関心があるかどうか。地域力を活用した「食事会」に参加したいか、どうか、など。

### ○まとめ

普段から地域交流に関心のある方々にとって、様々な機会、また世代間交流が期待される機会があることは好ましいと思われる。また食事会の際に、参加するかどうかについては、食事のメニューも重要な要因であることがわかった。

## 2. 「地域の食事会」実施及び調査実施

### ◇地域の食事会開催について

#### ○対象者

対象者は、八木小学校区内に住まいの方々。小学校 PTA 及び、ふれあいサロンにお越しの方々を中心に募集させていただいた。

#### ○実施日

下記の日程で2回実施した。

- ・平成29年12月8日(金) 19:00～
- ・平成29年12月16日(土) 9:00～

日程については、事前調査により、土日の朝食～昼食時というご希望が多かったこともあり、土曜の朝食時と、希望の第4位であった金曜の夕食時開催を設定した。

#### ○実施場所

社会福祉法人播陽灘特別養護老人ホームいやさか苑いやさかグループホームにて実施した。この施設は、地域の方が利用できるスペースを施設内に確保しており、開かれた地域交流スペースとして活用されている。また、ここでは、平成26年度姫路市政策研究助成事業：課題テーマ4「参画と協働を推進する施策の提案」採択研究テーマ「地域力を育てる子ども・保護者支援への取り組み」の研究をきっかけにここ3年間、月に1回「預かりサロン」という形で、お子さんと学生が遊ぶ機会を設けており、その活動の実施場所でもある。この施設の「地域交流スペース」の利点は、厨房設備があること、施設の管理栄養士から提供メニューについてのアドバイスを得ることができたこと、厨房機器がそろっていること、スペースは施設内あるが、施設の入居者の方々と交流することができる。同時に、仕切りを使って、独立させることもできることから、それぞれの活動を妨げない空間の確保ができることである。また、常時施設管理の職員の方がおられるので、遅い時間早い時間に限らず安心してスペースを使用することが利点として挙げられる。

#### ○実施内容

実施内容は下記のとおりである。

- ①朝食の提供 ②参加者交流プログラムの実施 ③アンケート実施

##### ①朝食の提供について

メニューについては、多世代の方が召し上がることができるという観点から検討した結果、1回目の食事会では、たこ焼きと豚汁、2回目の食事会ではカレーに決定し、カレーにトッピングをすることで、バリエーションを付けた。また、両方の食事会において、季節感を出すために旬の野菜を中心に使用した温野菜サラダを提供した。今回の食事会実施について、企業から食事会開催主旨にご賛同をいただき、食材の提供を受けることができたので、調理の際に使用し、また、お土産としてもちかえってもらった。そのことについてたずねたところ、食材のサンプルをもらうことについては 92%の方が「良い」と回答した。(旭松食品株式会社、株式会社スーパーホテルよりご提供を受けた)。



お菓子については、普段子どもたちがあまり目にしないお菓子も話題作りとして用意したところ、保護者にも好評であった。特に、大きいマシュマロは見た目のインパクトがあった。また、外観がかわいいリンゴジュースも人気があった。



## ②参加者交流プログラムの実施

参加者が共通で取り組める内容として、クリスマスツリーの飾りつけを行った。事前準備として、クリスマスツリー、電飾の準備、また参加者が飾りを作るための画材や飾りの作り方を模造紙に書いてみんなが取り組めるような工夫を行った。お土産として持って帰ってもらえるよう事前に折り紙でクリスマスツリーを約 150 個作り会場の装飾にも使用した。この折り紙のクリスマスツリーは学生がほぼ折って作成したが、いやさか苑に入居されている方々にもご協力いただくことができた。入居されている方々からこの折り紙クリスマスツリーを食事会参加者にお配りするなどの用途説明を行ったところ、ご賛同を得ることができ、快くご協力を得ることができた。施設におられる方々のダイバーショナルセラピーとしてこうした機会を設けていくことの意義を感じた。



## ③アンケート実施

食事会参加者を対象にアンケートを実施した。内容は下記のとおりである。

### ○質問内容 (付録資料に記載 以下抜粋)

ご参加されて、思われたとこと、どんなメニューがいい? 「地域の食事会」は「地域交流」を目的としていますが、どんな内容の交流会であれば興味がありますか? など。

### ○まとめ

こうした交流の機会が良かったということ、また、今後もこうした機会があれば良いとの意見が多かった。

## 3. 調査結果まとめ

地域の人同士が関わりあえる環境や活動内容を考えるための調査を行ったが、全体で言うと関心のある方が多かったわけではなかった。しかしながら、「地域の食事会」を実施した後では、関心のない方が 0% という結果となった。26~27% から 0% になったということは、実際に会をかさねることで、交流会が認知され、地域の協力も得られる可能性があるのではないかと。また、食事会参加者からは、非常に良かった、また開催してほしいとの声が圧倒的であったことを考えると、今回の調査の主旨であるところの、地域の居場所作り、交流会、食事会というものを実施していくことには大いに期待もあり、意義もあることが伺える。

食事会の感想としては、食事会を交流会ととらえると、やはりコミュニケーションが深まる、会話を楽しむという要素が大きかった。同地区で毎月1回行われている「ふれあいサロン」という朝食会は大変に盛況で、皆さんが会話を楽しんでいる姿が見られることから、会話を楽しんだり、交流を楽しむ機会を設けることは大変に意義がある。2回目の食事会では主に小学生とその親に集まっていただき、同じ小学校ということもあり盛り上がった。同じ世代同士で集まると自然と会話が弾むことがわかると同時に、違う世代同士が自然と交流できるようにするにはもっと工夫が必要なところもあった。

また、高齢者施設の入居者の方々との交流を図るという課題がある中、今回は食事会参加者の主に子どもたちに持って帰ってもらい折り紙を手伝っていただいたが、その作業が大変に喜んでいただけた。ある参加者からは、「死に土産です!」と言っていただけた。「何かの役に立つ」に関してご自分からきっかけを作りにくい環境におられる方々に対し、機会を提供するというエンパワメントの必要性を改めて感じる事となった。

今回は、食品のサンプル提供という形での企業との交流を行ったが、今後、様々に広がる手ごたえを感じた。

#### 4. おわりに 研究成果の概要と政策提言について

本研究のテーマは、「地域力を育てる - 地域の求心力を高める地域の食卓 -」である。地域力について「地域力」とは、地域にお住まいの方々が地域の抱えるニーズ(必要性)に応じて協力して解決していこうとする力のこと、と定義すると、マンパワーはもとより、建物の活用、知恵の活用が発揮できる活動の場を整えば、おそらくは最大限の結果が出せると想定できる。

今回の調査を実施してより分かったこととして、世代間交流をみんなが良いことだと考えているが、実際には、同世代同士の活動が主であり、世代間交流を深める取り組みの実現が今後の課題となっている。「我が事・丸ごと」地域共生社会実現に向けての方策として、全国で様々な取り組みが行われる中、機会をエンパワメントすることで、その興味関心が深まり、実現する流れを作っていくことも分かった。

##### ○政策提言として次の内容を挙げる。

①世代間交流を望む声はあるが具体的な仕組みがない。よって、叶える仕組みの整備が必要であるがそのために、既存の活動、例えば「ふれあいサロン」やPTAが主催する活動で、地域の方々がボランティアというかたちなどで参加しやすいものにしていく。各地域での活動の情報を集約したり情報発信する機能をもつ中立的なセクションがあればより円滑に進むのではないか。この交流の中に、地域力に関心のある企業などが交流しやすい仕組みがあればさらに実現は具体化される。

##### ②地域を応援する地域交流のためのボランティア養成の必要性

さまざまな活動が行われる際、地域のどの活動にでもボランティア活動できるような仕組みがあれば、さらに交流は深まると予測できる。また、ボランティア参加への意欲は女性の方が多い。男性の参加を呼びかけるには、男性が活動しやすい時間帯や、また活躍していただける仕組みを工夫していく必要がある。

##### ③世代によって目的が違う。

それらを把握した上で開催すればニーズに合致した企画となり得る。

##### ④企業との交流活動の可能性

例えば、大阪市住之江区では、行政に「まちづくりセンター」というものがあり、情報集約として機能し、企業と住民との橋渡し役を担っている。また、ネッツトヨタ西宮では、車のショールーム内に、誰でも使用できる子ども図書館(無料開放)と地域交流のためのクッキングや飲食ができるスペースを開放している。今回、本調査で場所の提供をしていただいた高齢者施設を運営するいやさか苑では、むしろ積極的に地域の方々につかってもらいたいということで、同施設内に地域交流スペースを作っておられる。また、食材の提供を受けることができた企業もあった。地域交流を深めていこうという流れの中で、利用可能なスペース、そして活用できるマンパワーを整えていくことで、よりよい共生社会の実現をかなえていくことが望まれる。

#### 謝辞

本研究を進めるにあたり、多くの方々にお世話になりました。心から御礼申し上げます。